

第24回 大鹿村リニア連絡協議会を開催

・リニア工事による影響調査の情報や住民意見などを共有し、リニア工事全般に関わる事項について連絡調整を行うことを目的に、JR東海、施工業者、長野県、高森町、大鹿村及び住民による「大鹿村リニア連絡協議会」が6月23日、交流センターに於いて関係者52名が出席し開催されました。また今年度最初の協議会となり、協議会の正副会長の選出が行われました。以下に概要をお知らせします。

■第24回 リニア連絡協議会

○第6期正副会長を選出（会長）森上 安弘（副会長）引地 龍也

○委員の構成

（大鹿村関係委員）大鹿村議会、農業委員会、教育委員会、商工会、観光協会、建設業協会、飯伊砂利組合、下伊那漁業組合大鹿支部、村内27自治会長、大鹿村
（長野県関係委員）飯田建設事務所、リニア整備推進事務所、南信州地域振興局 各担当者
（リニア事業関係委員）JR東海、施工業者

①（主）松川インター大鹿線改良工事について

- ・（主）松川インター大鹿線について、実施中及び完了済みの箇所について説明がありました。
 - ①安全対策工事：支障竹木伐採による視距確保完了（葛島）
 - ②道路改良工事：調査・設計（二軒屋）
 - ③道路改良工事：盛土造成工事（半の沢）
 - ④防災対策工事：地質調査・測量設計（四徳大橋西）
 - ⑤道路情報提供設備：道路情報カメラ設置5基（西下トンネル～東山トンネル）
電光表示板1基（東山トンネル）
 - ⑥トンネル工事：工事発注予定（落合トンネル）
- ・（国）152号下樽渡橋の架替工事について、本年度は現橋の撤去と下部工の工事を予定している説明がありました。

② 南アルプストンネル工事について

【小渋川非常口】

- ・小渋川非常口は、4月11日より本坑（品川方）の掘削を開始しました。
- ・先進坑（小渋川-釜沢間）は、工事用車両の運搬路として使用しています。

【除山・釜沢非常口】

- ・除山非常口は、先進坑（品川方）の掘削を進めております。
- ・釜沢-除山間は、前方の地質が確認できたため、6月9日より本坑の掘削を開始しています。
- ・発生土仮置き場A（除山横）は、置き場を拡幅する造成工事を行っています。
- ・発生土仮置き場B（三正坊）は、土砂の搬入・搬出工事を行います。
- ・発生土仮置き場E（小渋川変電所予定地）は、土砂の搬入・搬出工事を行っています。



小渋川本坑 施工状況

③ 伊那山地トンネル（青木川工区）工事について

【青木川非常口】

- 青木川非常口は、本坑延長（約 3,600m）の約 1 割の掘削が完了しています。
- 今後、本坑が通過予定の中央構造線部をより安全に施工するため、本線トンネルに並行する小さい断面のトンネル（調査用トンネル）を掘削する検討をしています。
- 深ヶ沢地籍の発生土置き場（青木川）では、護岸工の施工が完了し、発生土による造成を行っています。



発生土置き場（青木川）施工状況

④ 工事用車両台数について

■工事用車両台数

月別日平均 往復台数		深ヶ沢	下青木 薬師堂前	沢戸橋	大鹿村 役場前	半の沢	渡場 交差点
資機材運搬車両 JR工事による	R4.3 実績	0.2	27.0	71.6	44.5	76.0	31.5
	R4.4 実績	1.5	24.8	48.8	36.1	74.8	38.7
	R4.5 実績	0.6	24.0	54.8	24.8	54.6	29.8
	R4.6 実績	0.0	28.0	60.7	23.6	55.8	32.2
	R4.7~ R4.9予定	2.0	30.0	110.0	80.0	145.0	65.0

■発生土運搬車両台数

月別日平均 往復台数		深ヶ沢	下青木 薬師堂前	沢戸橋	大鹿村 役場前	半の沢	渡場 交差点
発生土運搬車両 JR工事による	実績	R4.3	127.3	41.0	39.1	80.1	80.1
		R4.4	109.8	40.1	57.2	97.3	97.3
		R4.5	91.7	77.0	54.9	131.9	131.9
		R4.6	99.3	70.7	62.7	133.4	133.4
	予定①	R4.7 ~R4.9	100.0	120.0	120.0	240.0	240.0
発生土運搬車両 高森町への	実績	R4.3	/	125.4	102.7	228.1	228.1
		R4.4	/	128.9	119.7	248.6	248.6
		R4.5	/	91.7	189.5	281.2	281.2
		R4.6	/	88.7	146.2	234.9	234.9
	予定②	R4.7 ~R4.9	80.0	220.0	300.0	300.0	
半の沢道路改築事業 への発生土運搬車両	実績	R4.3	/	/	120.7	120.7	/
		R4.4	/	/	167.7	167.7	/
		R4.5	/	/	233.0	233.0	/
		R4.6	/	/	263.3	263.3	/
	予定③	R4.7 ~R4.9	/	/	200.0	200.0	/
R4.7~R4.9 発生土運搬車両台数合計 ①+②+③			100.0	200.0	540.0	740.0	740.0

※「月別日平均」とは、月延総台数を1月当りの工事稼働日数で割り戻した数値です。
 ※R4.6の台数は6月10日までの実績台数です。

⑤ 国道152号迂回路の拡幅について

- 国道152号迂回路への出入りをよくするため、出入口周辺の一部区間を拡幅する計画です。
- 工事は8月中旬を予定しております。

⑥ 発生土仮置き場における作業期間の更新について

●仮置き場A・B・E工事（昼間工事）			
仮置き場 （作業箇所）	A （除山非常口 ヤード隣接地）	B （三正坊橋周辺）	E （変電所用地）
作業内容	発生土受入・搬出	発生土受入・搬出	発生土受入・搬出
作業期間 （予定） *日曜日は除く	旧	平成29年4月～ 令和4年10月	平成29年7月～ 令和5年3月
	新	平成29年4月～ 令和8年7月	平成29年7月～ 令和8年11月

●発生土置き場（青木川）造成工事（昼間工事）		
仮置き場 （作業箇所）	発生土置き場（青木川）	
作業内容	造成工	
作業期間 （予定） *日曜日は除く	旧	令和2年8月～令和4年7月
	新	令和2年8月～令和4年11月

⑦ 公共事業活用（高森町）について

■高森町下市田産業用地整備事業について

- ・当初の想定よりも運搬車両台数が少なく、予定期間内に造成工事を完了することが難しいため、運搬時期の延長を行いたい説明がありました。

○運搬時期：令和4年9月→令和4年12月（最大）

※運搬時間帯等変更はありません。

⑧ 鳶ヶ巣沢環境対策事業について

■事業計画

- ・鳶ヶ巣沢においてリニア中央新幹線工事の発生土を活用した環境対策事業を計画しています。

■現在の状況及び今後の予定

- ・砂防フロンティア整備推進機構による設計照査結果を踏まえ、試験施工や追加の地質調査などの現地調査を行うとともに、関係者との協議を進めてきました。

- ・技術検討委員会の学識経験者から助言をいただきながら構造に関する検討を更に深度化し、今回、基本的な盛土構造を決定しました。

- ・今後決定した盛土構造について、詳細な施工計画の策定を行います。

※渡河設備について橋りょうで計画しておりますが、小渋川左岸側の鳶ヶ巣沢よりも下流の護岸計画に則り、将来の維持管理を考慮し、工事用道路を設けられないかについても、関係者と協議をしながら検討を進めていきたいと考えております。

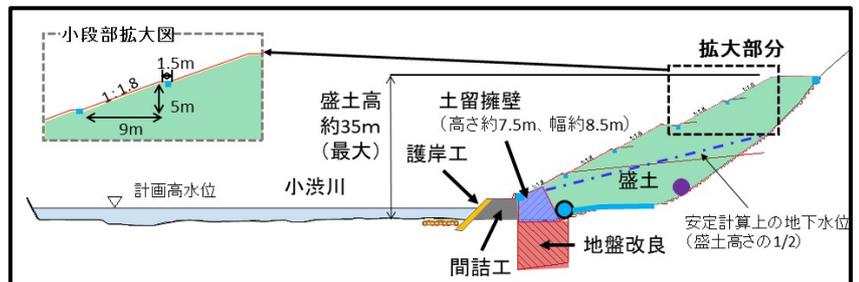
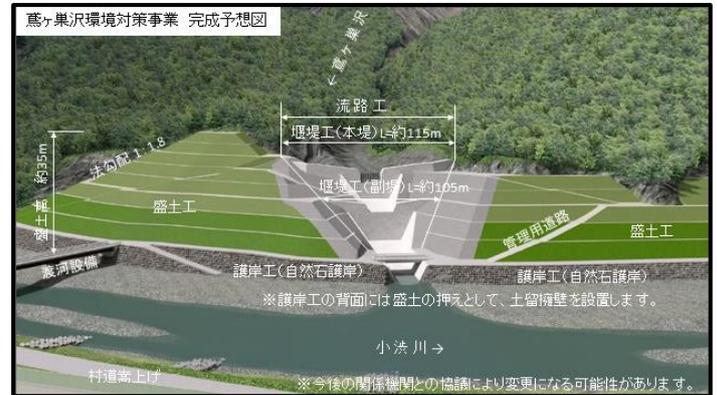
■盛土構造のポイント

①盛土の構造はどのようになっているのか

- ・盛土勾配を 1：1.8 の緩やかな勾配として計画します。
- ・盛土の押えとして、護岸工の背面（盛土下端部）に土留擁壁を設置します。土留擁壁は「発生土」に「セメント」を混合したコンクリートのような材料を使用します。
- ・盛土の安定性については、降雨や地震などを考慮しています。具体的には、盛土内に地下水が留まらないように十分に排水工を設けますが、地下水位が上昇しても盛土の安定性が確保できるように考えています。
- ・土留擁壁を護岸工と分離した構造にすることにより、洪水等に対しても盛土の安全性を確保しています。なお、土留擁壁は、地盤改良をした地盤のうえに設置することで必要な支持力を確保します。

②小渋川が増水したらどうするのか

- ・小渋川本川に対する護岸については、土留め壁の前面に環境に配慮した自然石による護岸を設置します。
- ・洗堀を防止するために、護岸前面に床固めを整備し、河岸が崩れるのを防止します。



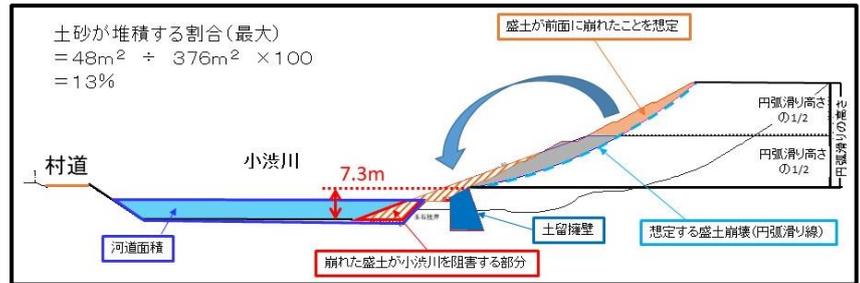
③盛土部分の水の処理はどうなっているのか

- 盛土表面の水を適切に排水するために小段排水、縦排水、法尻側溝、平場排水等を設置いたします。
- 検討にあたっては、周辺から流れ込む雨水も考慮して計画しています。なお、雨量は、過去に周辺で観測した最大時雨量を上回る雨量を想定して検討しています。
- 盛土の中に、地下水が溜らないように、十分な大きさの地下排水管を2重に設けます。
- 盛土表面から浸透した水を排水するため、水平排水材を設置します。
- 盛土中段以上に地下水位が上昇しないよう、排水ボーリングを実施します。

④地震が起きたらどうなるのか

※震度7相当の地震が起きても崩れない設計を実施していますが、万が一を想定し、盛土が崩れた時に、下流域の小渋川へどのような影響があるのかを検討しました。

- 検討の結果、崩れた盛土が小渋川を阻害しても、洪水などで必要な河道の面積は確保され、下流域の小渋川への影響は小さいと考えています。
- 仮に、想定を上回る河川水位の上昇に対しても、土留擁壁により盛土は押さえられるため、盛土が洪水により直接浸食されることを防ぎます。



- 河床の変動を定期的を確認し、必要な断面が確保されることを確認します。河床が上昇し、必要な断面が確保できない恐れがある場合は関係各所と協議の上、対応を行います。

⑤鳶ヶ巣上流から土石流がきたらどうするのか

- 鳶ヶ巣沢最下部に流路工（本堤、副堤）を設置し、小渋川への土砂の流出を防止します。

⑥将来の安全管理等はどうするのか

- 施工時と施工後のいずれの場合においても、JR東海が盛土や流路工等の安全管理を行います。
- 盛土や流路工等の安全管理として、盛土地表の変位や盛土内の地下水位など盛土の状態を計測機器により監視するなどします。
- 施工後の盛土表面の目視点検、排水側溝の点検清掃等の簡易の日常点検については大鹿村で行います。

⑨ 中部電力パワーグリッド工事について

●送電線工事について

- 中部電力パワーグリッドより送電線工事の進捗状況について説明がありました。本体工事は、No.29 鉄塔の組立工事が完了し、No.22, 23, 24 鉄塔の仮設工事、No.26 鉄塔の基礎工事中です。
- 6月末から No.25 鉄塔の仮設工事、7月から No.27 鉄塔の組立工事を予定しています。
- 架線準備工事として、7月～10月に No.26～27～28 間の送電線下伐採を予定しています。
- No.22, 23 鉄塔の仮設、基礎工事に伴いヘリコプターによる資機材の輸送を行います。

月	実績		今後の予定						
	6月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1～3月
運航日数	1日	2日	10日	10日	10日	10日	10日	10日	5日

- できるだけ2基の運航日程を合わせて運航日数が少なくなるように、また極力土曜日運航は避けるよう配慮します。
- 天候や各鉄塔の施工進捗状況等により、運航日数や回数は増減します。

○次回（第25回）開催日程等について

- 次回開催時期を令和4年9月26日の週とし閉会しました。